

わたしの修習時代

紀尾井町：1948－70

湯島：1971－93

和光：1994－

71期(2017/平成29年)

多くの出会いがあった修習時代



会員 牧野 輝暁 (71期)

私は大学→法科大学院→司法修習と社会人経験なく司法修習生になったため、司法修習は社会人デビューでもあった。そのため、初めて社会に出て様々な場所に行き、人と出会い、学ぶことが非常に楽しみであり、実際に今修習時代を振り返ってみても思い出されるのは楽しかった思い出ばかりである。

私の修習地は東京である。私は地方の出身であり、また上京後もずっと多摩地域に住んでいたため、和光や霞が関に行くことすらも楽しかったし、初めて東京地方裁判所の正面入り口の前に来た時「ニュースで見るところだ!」と感激した。私は現在当会の法教育委員会に所属しており、同委員会では学生を対象とした裁判傍聴の引率を活動として行っている。その活動の中で中学生や高校生の裁判傍聴を引率すると、生徒たちは皆目を輝かせて興味津々で私の話を聞いてくれる。その様子を見ていると私も初心を思い出すことができる。

また、司法修習の同期は多種多様なバックグラウンドを持っており、社会人経験のある同期や、全国各地からやってきた同期から、私の知らない世界（というと大袈裟かもしれないが）の話を聞くことは非常に楽しかった。なお、私は社会人経験のある10歳程度も年上の同期のことを同い年くらいだと勘違いし、タメ口で接してしまうという失態を犯したが、それによって距離が縮まり仲良くなれたため、結果オーライだったと思う（心の広い同期ばかりで感謝

している）。実務修習では裁判官、検察官、弁護士を始めとする多くの実務家の方々に大変お世話になった。裁判修習で学んだ量刑の考え方や証拠の見方、検察修習で学んだ事件の見通しの立て方、弁護修習で学んだ依頼者との接し方は、弁護士になって5年目を迎えた今でも私の中で確実に生きていて感じる。

司法修習では出会いに恵まれ、現在でも修習時代の繋がりは続いている。検察修習で同じ班だった同期とは今でもたまに会ってはお酒を飲む仲であり、先日は検察修習でお世話になった検察官の方もお誘いして一緒にお酒を飲むことができた。また弁護修習でお世話になった弁護士の方が自身の事務所を立ち上げた際のパーティーにお声がけいただき、お祝いすることができた。本稿を執筆することとなったのも、同期から声をかけてもらったことがきっかけである。このように現在でも修習時代の繋がりは続いており、実務家になってから修習時代にお世話になった方々とお話すると、修習生だった頃とはまた違う視点・考え方でお話ができるため非常に楽しい。

楽しかった修習時代は本当にあっという間で、既に私が弁護士になって5年目である。修習時代の出会いに感謝するとともに、その経験を生かして素晴らしい弁護士になれるようこれからも励んでいきたい。